

NPOとの共働による不登校児童生徒の保護者支援事業(呼称:不登校よりそいネット)

事業進捗(中間報告)

不登校よりそいネット実行委員会

(1)共働のきっかけ・必要性

①NPOと市との「共働」の必要性

学校を中心に不登校児童生徒に対する支援策が進められる一方で、その保護者に対する支援策が遅れている。不登校に対する支援は児童生徒と保護者の双方への支援が車の両輪であり、同時並行して進められることでその効果は格段に向上する。そのために、保護者が学校や公的施設だけでなく、地域でも安心して支援を受けることが出来る体制が求められている。

②NPOの提案理由

- ・支援活動を当事者が安心して利用できるような信頼を得るため
- ・教育委員会及び学校との連携による支援活動を実現するため
- ・個々に活動する NPO 団体がネットワークを組み、連携して対応することで、より大きな力を発揮するため
- ・市の経済力、広報力の支援を得るため

③市担当課の取り組み理由

- ・不登校児童生徒の保護者支援には地域での支援が有効であり、その活動を進めている NPO との連携を進めるため
- ・ネットワーク化で行政各部署とのさらに緊密な連携を進めるため

(2)事業目的

不登校児童生徒の保護者支援に関する福岡市全域をカバーするネットワークを構築し、行政、市民、団体、組織等の横断的な連携を実現し、当事者への効果的な支援を行う。

(3)事業内容

①ほっとライン(不登校に関するワンストップ問合せ)

電話相談窓口の運営と個別相談への対応

- ・ワンストップ電話の常設 TEL092-283-8815
- ・不登校に関する問合せ電話への対応
- ・個別相談への対応



■不登校ほっとライン受付の様子

②当事者、支援者及び関心のある市民への不登校理解のための啓発・研修活動

- ・当事者研修「不登校の悩み語り合いませんか」の毎月開催
※毎月第4土曜日14:00-16:00定例開催
- ・ふくおか不登校フォーラム 2014 の開催(6月14日, 15日)
- ・不登校啓発事業「不登校のセミナー」の開催(年2回)
※10月11日(第1回)、H27年1月17日(第2回)
- ・支援者研修の開催(毎月連絡協議会を兼ねて開催)



■6月15日不登校フォーラムの様子

**③不登校支援に関して市及びその周辺で活動している
NPO等民間団体・個人(専門家)と行政各部署によるネットワークの構築**

- ・ネットワーク連絡協議会の開催による各団体との情報交換及び協力の推進
- ・ふくおか不登校フォーラムの開催
- ・ネットワーク連絡協議会への参加団体募集



■不登校よりそいネット連絡協議会

(4)NPOと市の役割分担

①それぞれの役割

役割	NPO(不登校サポートネット)	行政(教育委員会生涯学習課)
実行委員会(6名体制)	実行委員長1名、 実行委員2名	副実行委員長1名、 実行委員2名
事務局(23名体制)	事務局担当(※23名体制)	
事業1(不登校ほっとライン)	①不登校への問合せ電話の常設 092-283-8815 ②担当者の養成・研修 ③報告書の作成 ④事業費の収支管理	①行政関連部署との調整及び 情報提供 ②担当者研修への講師派遣 ③負担金交付
事業2(啓発・研修)	①講座、セミナーの企画・実施 ②広報 ・チラシの作成・配布 ・マスコミレビュー ・ホームページの開設 ③アンケートの実施 ④事業費の収支管理	①会場手配協力 ②広報協力 ・市政だより ・公共施設へのチラシ設置 ③負担金交付
事業3(ネットワークづくり)	①ネットワーク構築の企画・運営 ②不登校フォーラム開催 ③NPO等民間との連絡調整 ④報告書等の作成 ⑤事業費の収支管理	①ネットワーク構築に関する 企画・運営への協力 ②不登校フォーラムへの協力 ②行政の関連部署との連携 ③負担金交付

②ネットワーク参加団体の役割

役割	協力団体(NPO)	協力部局(行政)
事業1(不登校ほっとライン)	①情報提供 ②個別相談対応協力	①情報提供 ②個別相談対応協力
事業2(啓発・研修)	①開催協力 ②広報協力 ③情報提供	①開催協力 ②広報協力 ③講師派遣
事業3(ネットワークづくり)	①情報・意見交換 ②相互協力 ②共同事業の開催	①情報・意見交換 ②各関係部署への広報

(5) 共働するうえで工夫した点

① 工夫した点＝意志の疎通

- ・実行委員会の定例開催(毎月第1木曜日)
毎回2時間から2時間半程度、毎月の事業進捗確認やその時点での課題などを話し合い、改善を図っている。
- ・実行委員会での提案・情報交換のための事前打合せをメールや電話、面談で随時行っている。
- ・事務局ミーティングを毎月実行委員会の翌週(毎月第2木曜日)に開催し、実行委員会での決定事項を確認および検討し、意志の疎通および計画に基づく事業推進を図っている。
- ・啓発研修事業及びネットワークづくり事業は両方で協力して内容を検討し、実施にあたっては会場設営や事業の運営を話し合っている。



■実行委員会の様子



■事務局ミーティングの様子

② 苦勞した点

- ・3年目に入って、それぞれの役割分担も明確になり、事業は円滑に進められており、特に苦勞している点はない。

(6) 共働事業の成果(NPO 単独では出来なかったこと)

① 不登校支援事業で初めての官民共働の実現

- ・不登校児童生徒の保護者支援について、NPO と行政(教育委員会)が同じテーブルで、同じ目的を共有して、話し合い協力する体制が実現したこと
- ※行政という信頼感とNPOという親近感が相まって、これまでにないサポートセンターが誕生したというイメージが当事者間に広まっている。



■ネットワーク連絡協議会ミーティング

② 学校現場に入っている支援の実現

- ・不登校は非常に個人的でデリケートであるため、学校現場は第三者(NPO)が介入することに関して非常に慎重であるが、共働事業として生涯学習課が関わり窓口となることで、事業がスムーズに学校現場へ伝わっている実態がある。
- ・具体的な成果として、学校における不登校保護者の会が、現在3校で不登校よりそいネットのコーディネートのもと開催されている

③ NPO 団体・民間団体のネットワーク参加が拡大・進展

- ・現在32団体、行政6部署を加えて38の団体によるネットワークが実現している。
- ・関連団体を加えるとすでに74団体へ不登校よりそいネットの情報が届き、協力が可能になっている
- ※中間支援 NPO が参加しているため
- ・現在も問合せや参加希望が続いている

④ 事業開始からこれまでの事業実績

別紙①参照:「NPOとの共働による不登校児童生徒の保護者支援事業」事業実績表

- ・(事例1)ふくおか不登校フォーラム2014を2日間開催して650名の参加者があった。不登校を経験した保護



■不登校フォーラム(6月14日)

者や若者の体験談発表やテーマ別の分科会を企画し、不登校について多面的に考える機会となった。

(7)担当者の声・市民の声

①担当者(実行委員・事務局員)の声

- ・わが子が不登校をしている時期に本当に悩みました。その辛い経験を生かせる場としてこの不登校よりそいネットの事務局スタッフとして活動出来ていることを嬉しく思っています。多くの当事者の方とその気持ちを共有し、考えることは単なる支援だけではなく、自分自身の人間的成長にも繋がっています。
- ・啓発・研修事業の企画を立て準備を進めることで、支援活動というものがどのように具体化され、組み立てられていくのかを学ぶことができ、自分の活動のための学習の場にもなっています。これからの私自身の活動の基礎づくりとも思えます。
- ・今まで会社や地域で色々な話し合いに参加してきましたが、本当の話し合いというのは、全員の意見を出し合って、それを足し合うことだということを事務局MTで初めて体験しました。自分の意見も反映出来て満足しています。その分責任も感じながら関わっています。



■事務局MTの事業部別MTの様子



■事務局学習会

②市民の声(不登校フォーラムや不登校セミナーなどの参加者の声)

- ・今まで色々なところに相談をしましたが、或るところでは育て方が悪いといわれ、別の場所では甘やかせていけないと言われ責められている感じを受けて苦しくなっていました。この事業の「不登校の悩み語り合いませんか」に参加して、初めて自分のことを認めてもらえてほっとしました。親として至らない点も同時に考えることが出来て前に進めそうです。
- ・ほっとラインの電話受付の方が不登校経験者ということもあり、自分の苦しさも受け止めてもらって、すぐに本音で話すことが出来ました。個別相談も併せて利用させてもらいながら、わが子と向き合っていますが、親子共々本当に明るくなることが出来ました。
- ・NPOと行政が協力して支援体制を組んで頂いているので、市民への理解力と公的な信頼感が相まって、本当に頼もしい存在です。このような事業が一時的なものではなく、今後とも継続されることを期待します。



■不登校の悩み語り合いませんかの様子



■不登校セミナーの様子

(8) 共働事業終了後(平成27年度以降)への展開

①事業を継続する必要性

●官民が協力して事業を行うことが前提の事業

この事業への信頼感や安定感には行政の力が必要であり、親近感や安心感にはNPOの存在が必要であり、この両者がうまく機能することでこの事業が成り立っている。「共働」という形は今年度で終了するが、「共同」しながら継続し、「不登校よりそいネット」(不登校児童生徒の保護者支援)の利用の定着化、認知度のUPをさらに進め、不登校の現状の改善に貢献する必要がある。

②事業の展開

イ) 不登校ほっとラインの認知度 UP とさらなる利用の推進

今年度も昨年度に引き続き、福岡市立の全小中学校に不登校ほっとラインのチラシを配布して、認知度UPを図ったが、まだまだ認知度が低い。保護者から直接その悩みや苦しさを話してもらいながら、保護者の孤立を防ぎ、親子関係の改善を促進したい。スタッフが不登校の当事者としての経験のあるということでの安心感や信頼感が得られやすいのが大きな魅力となっている。

ロ) 不登校の悩み語り合いませんか、不登校セミナーや不登校フォーラム等研修の場の開催

- ・不登校よりそいネット事業で進めてきた不登校の基本的理解をこれからも継続し、親子関係の改善に基づいた、子どもの状態の改善・回復の実現を目指す研修の場づくりを行っていく必要がある。
- ・これまで開催してきた啓発・研修事業の内容を更に充実させて、学校の学習会などにも積極的に出向いて開催できる方向で企画を進めていければと思っている。
- ・6月に開催していた不登校フォーラムは、6月全体を「不登校理解月間」としてNPOや行政がそれぞれに学び、交流する期間として発展させていきたい。

ハ) 学校での不登校保護者の会との連携強化

不登校対応教員の連絡会でこの事業の紹介などを行い、これまでに5つの中学校との連携が実現した。学校で開催されている不登校の保護者の会に参加し、元不登校児童生徒の保護者という立場と、より冷静な立場から、その場を考えやすい場へとしていく役割を果たしている。今後は不登校対応教員の配置校(福岡市で24中学校)にまで拡げて、不登校児童生徒保護者と教師との関係の円滑化に貢献し、学校が当事者支援の一つの軸として機能するように支援したい。

【福岡市共働事業推進制度】平成24年度実施事業
「不登校児童生徒の保護者支援のためのネットワークづくり」
実行委員会(総称:不登校よりそいネット)主催

不登校の悩み 語り合いませんか

毎月第4土曜日に福岡市立婦人会館で開催中!

不登校の子やその保護者の悩みが、その悩みを語り、手立てを共有する機会と信頼関係構築すること、相談の場の提供です。毎月定例として、お話し合いが形式で進みます。親が安心から解放されることで、子どもも安心して通学しつづけていきます。

この事業は、平成17年度から福岡市立婦人会館(本館)で実施。平成24年度からは、福岡市立婦人会館(本館)で実施。平成25年度からは、福岡市立婦人会館(本館)で実施。平成26年度からは、福岡市立婦人会館(本館)で実施。平成27年度からは、福岡市立婦人会館(本館)で実施。

※お問い合わせ先: 不登校よりそいネット 092-406-8815

■語り合いませんかのチラシ

③今後の事業計画

イ)不登校ほっとライン事業

- ・広報・PRの強化(認知度のUP)
- ・受付対応能力の強化(スタッフ研修の充実)
- ・啓発・研修事業や個別相談との接続強化
- ・関係行政部局、団体との連携強化

ロ)不登校理解のための啓発・研修事業

- ・不登校セミナーの開催及びその充実
- ・「不登校の悩み語り合いませんか」(毎月開催)の開催の継続
- ・不登校フォーラムの開催による「不登校理解」の促進と支援活動への社会的関心の喚起
- ・ネットワーク団体の啓発・研修活動との連携
- ・支援者の学習機会の拡大
- ・不登校グレーゾーンの保護者への働きかけ

ハ)学校との連携の強化

- ・不登校対応教員との連携強化
- ・学校での不登校保護者の会開催への協力・支援の推進
- ・児童生徒への情報提供活動(15歳からのハロースクール等)
- ・保護者への情報提供活動(同上)

以上、現在の事業進捗状況の中間報告です。

【添付資料】

- 別紙①:平成26年度不登校よりそいネット事業計画及び進捗表
- 別紙②:平成26年度不登校よりそいネット事業 事業実績表
- 別紙③:不登校の悩み語り合いませんか案内チラシ
- 別紙④:不登校ほっとライン案内チラシ
- 別紙⑤:不登校セミナー案内チラシ(10月11日)
- 別紙⑥:ふくおか不登校フォーラム2014 報告書